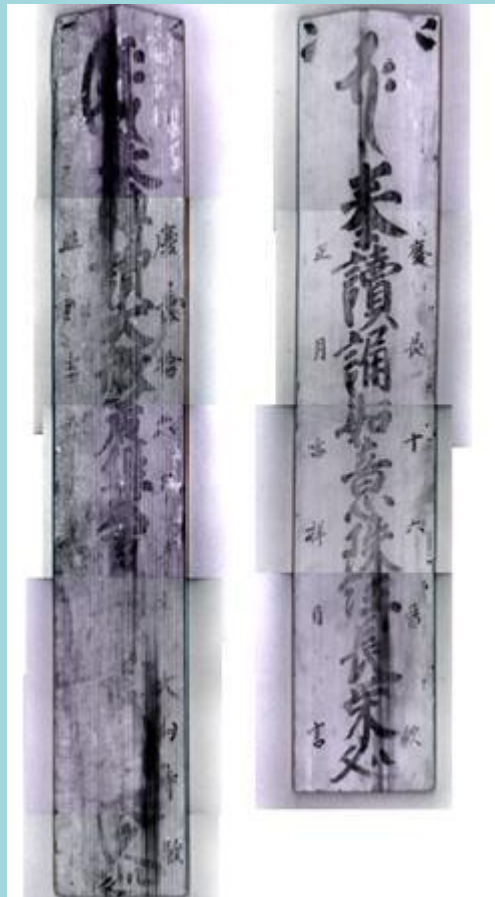


## 第 25 回 松江城創建に関わる祈禱札の発見

2012年5月21日、市史編纂委員の乾隆明氏のご紹介で松江神社に出向いた編纂室の3人(稲田、内田、居石)は、松江城創建に関わる祈禱札2枚の発見に立ち会うという幸運に恵まれた。



松江神社所蔵 祈禱札 赤外線撮影画像

(撮影協力 島根県立古代出雲歴史博物館)

2枚の祈禱札は、いずれも慶長16年の銘をもち、城戸久・元名古屋工業大学学長(建築学)が1937年(昭和12)に松江城天守を実測調査した際に確認されが、その後、その所在をたどることが出来なかったものである(城戸久「松江城天守」『仏教芸術』60 1966)。松江城の国宝化を目指す松江市は、国宝化推進室という組織を整え、この貴重な祈禱札に500万円の懸賞金をかけていた。

祈禱札に記された墨書については、赤外線調査により、その大半が判読できた。もちろん解読は編纂室職員による。1枚には「慶長十六曆」「(梵(バク))奉読誦如意珠經長栄処」「正月吉祥日」「欽言」「(奉読誦如意珠經長栄処)祈禱札と呼ぶ」[写真右]、もう1枚には「慶長拾六年 辛亥 大山寺」「(梵)奉転読大般若經六百部 武運長久処」「正月吉祥□(日か)」「敬□(白か)」「(奉転読大般若經六百部 武運長久処)祈禱札と呼ぶ」[写真左]とある。紀年銘とその

所在から松江城創建に関係すると考えられるこの2枚。祈禱はどこで行われたのであろうか。1枚には「大山寺」とあり、西日本における天台宗の一大拠点大山寺と分かる。では、もう1枚は……。

話は変わるが、松江市史では各種の付帯調査を行っており、石造物調査や木札(棟札・祈禱札)調査もその一つである。2012年10月、原始古代史・松江城部会の西尾克己先生を隊長に、編纂室の稲田、木下は真言宗の総本山高野山奥の院に旅立った。松江藩主堀尾家墓所にある石塔調査と、堀尾氏の宗教的背景の一端を確認するためである。

高野山に行って改めて確信したのだが、堀尾氏と高野山の関係は非常に深い。堀尾氏の宿坊は龍生院で、紀伊藩が編纂した『紀伊続風土記』『高野山之部』龍生院(天保10年)には、「(前略)堀尾吉晴主(中略)正五九の月には武運栄久の誓祈を乞ひ香華佛餉の資糧を附す 且堀尾家雲隠両国の太守たりし時建立の碑数基あり」とある。堀尾吉晴は堀尾家の武運栄久などを願い高野山龍生院を宿坊とし墓所を設けるとともに、領国支配や松江城下町形成、松江城築城などにあたって、「長栄」「武運長久」などの祈禱を高野山真言宗に願ったのではなかろうか。松江城の鬼門(北東)には真言宗千手院(松江市石橋町)、裏鬼門(南西)には真言宗報恩寺(松江市玉湯町)を配置してもいる。

さて、松江城創建に関係すると考えられる前述の2枚の祈禱札。祈禱はどこで行われたのであろうか。1か所(「奉転読大般若経六百部 武運長久処」祈禱札)は墨書にある天台宗大山寺である。もう1か所(「奉読誦如意珠経長栄処」祈禱札)は、墨書にはないが真言宗高野山(おそらく龍生院)での可能性があるかと密かに考えている。

気になる500万円の懸賞金である。発見に立ち会うという幸運に恵まれた編纂室員であるが、調査員は市の職員であるので懸賞金の対象とはならない。しかし、日頃の地道な調査があればこそ、松江市にとって貴重な発見があったというお褒めの言葉をいただいた。

[詳しい資料などは本年発刊予定の下記の報告をご覧ください。堀尾家墓所の調査については、後日、木下誠副主任が本欄に投稿予定です。]

#### 【参考】

稲田信、内田文恵、居石由樹子「松江城天守創建に関わる祈禱札について」(『松江城研究』2 松江市教育委員会 2013(予定))

西尾克己、稲田信、木下誠「高野山奥の院に所在する堀尾家墓所について」(『松江歴史館研究紀要』3 松江歴史館 2013(予定))

(平成25年1月15日 文化財課史料編纂室 稲田 信)